

—音を診る—

騒音の計測と評価/dBとLAeq

久野 和宏、野呂 雄一 編著

技報堂出版／2006 139ページ 2,400円(税別)



会話や音楽等、音は意志の疎通など欠くことが出来ない。しかし、その反面、不要な音は不快感を与え、生活の妨げとなる音(騒音)となる。本書は、これから騒音の計測・評価について学ぼうとする学生や実務者向けに、音や耳の基礎的な性質について簡単に説明した入門書である。騒音分野は、専門用語の障壁が高いが、dBやLAeq、WECPNLなどの専門用語の意味内容と概念を詳しく解説している。また、騒音に係る現状、法制度、最近の話題等を取り上げ、今何が問われているかを分かりやすく紹介している。

前立腺の病気 改訂新版

専門のお医者さんが語るQ&A

杉村 芳樹 著

保健同人社／2007 174ページ 1,350円(税別)



前立腺がんと肥大症の患者数が増加する中、診療は著しく進歩し、新たな治療法や新薬も次々開発されている。筆者は、前立腺がんの診療だけではなく、最近では、前立腺肥大症に対する新規レーザー治療にも取り組んでいる。前立腺の病気は高齢者に多いことから、より体に優しい治療が望まれ、生活の質(QOL:クオリティーオブライフ)と診療の質(QOC:クオリティーオブケア)の向上が求められている。本書は、前立腺に関する基礎知識から前立腺疾患の診断と治療まで最新の動向を、Q&A形式により一般の方にわかりやすく解説した本である。

神経内科の緩和ケア

—神経筋疾患への包括的緩和アプローチの導入—

葛原 茂樹、大西 和子 監訳

メディカルレビュー社／2007 246ページ 2,600円(税別)



緩和ケアでは終末期がん患者への取り組みが先行しているが、長期にわたる不自由と苦痛を背負う神経筋疾患の患者・家族にも同様のケアが必要である。主著者Ian Maddocksは1980年頃から日本やアジアに何度も足を運び、わが国独特の医療事情、高齢者や神経難病の医療にも詳しい。彼が三重大大学神経内科との交流の中で必要性を痛感し日本の状況と読者にも配慮してまとめた原著を、海外研修としてオーストラリアの医療機関に滞在し、現地で行われている神経疾患診療、患者サポート体制、リハビリテーション医療、緩和ケアを体験した本学の神経内科医が翻訳した。医師、看護師、介護士、ソーシャルワーカー、医療系学生に参考となろう。

2006年12月～2007年5月

三重大大学の主な出来事

(三重大学広報誌「Flash News」より)

詳しい情報を知りたい方は、下記アドレスのページをご覧ください。

<http://www.mie-u.ac.jp/home/flash/index.html>

第43号

- 「フランダース・パイオクラスター JAPAN ROADSHOW 津」が開催
- 伊賀市との産学官連携による研究拠点設置に向けて始動
- シャープ(株)との環境報告書に関する意見交換
- 「硬式野球部」学長表彰
- 三重大学・百五銀行・百五経済研究所との産学連携記念セミナーを共同開催
- 工学部・工学研究科技術部技術発表会開催
- 「青少年のための科学の祭典」第4回三重大学大会
- 防火訓練
- 国際交流センター交流会
- JICAプロジェクト「北部タイ省農業適正技術計画」終了式開催
- フィールドサイエンスセンター設立5周年記念シンポジウムを開催
- 総務部より

第44号

- 「勢水丸」の代船建造の内示を受ける
- 三重大学で初めての「地震・津波避難訓練」を実施
- 再開発の進展について
- 三重大学東京フォーラム開催
- 学長補佐就任挨拶
- 三重大学教育学部が四日市市教育委員会と連携協力に関する協定締結
- 第1回バンゲアアクティビティ
- シンポジウム「海村・須賀利に学ぶものⅡ」
- 環境問題を考えるシンポジウム「レジ袋有料化」を開催
- 「平成18年度業務改善活動報告会」開催
- 三重大ビアサポート

第45号

- 「第10回環境コミュニケーション大賞」で優秀賞(環境配慮促進法特定事業者賞)に輝く
- 寄附講座「地域医療学講座」の設置
- 「地域メディアに関する」公開研究会
- 「東海・東南海・南海地震シンポジウム-その時に備えて防災を考える-」開催
- 三重大学アカデミックフェア2007開催
- 18年度「第2回ハラスメント防止研修会」
- 「文部科学大臣による優秀教員」ならびに「平成18年度三重県文化賞(文化奨励賞)」受賞
- 駐日ブルネイ・ダルサラーム国大使訪問
- みえメディカル研究会「知的財産研究会セミナー」を開催

第46号

- 平成19年度から発足する新体制-新組織理事挨拶・学長補佐紹介-
- 理事退任挨拶
- 三重県科学技術振興センターとの連携による包括協定
- 「読売東海医学賞」を受賞
- 「個人情報保護に関する講演会」
- 「学生総合支援センター講演会～学生への初期対応について-個性と役割を生かす～」
- 「バイオ・メディカル創業プログラム修了認定のための審査会」を開催
- 教育改善のための国際シンポジウム・ワークショップ「ポートフォリオ評価の方法論」を開催
- 「平成18年度三重大学教育GP成果報告会」
- 「第2回地域メディアに関する」公開研究会を開催

第47号

- 三重大学伊賀拠点設置協定書の調印式
- 三重大学振興基金特別寄附者銘板除幕式
- 白衣授与式
- 「第10回環境コミュニケーション大賞」表彰式に出席
- 三重大学学術機関リポジトリ研究教育成果コレクションの正式運用開始
- SOI(School Of Internet) Asiaプロジェクトの特別セミナーを発信
- 「学生対応ガイドブック」刊行
- 第2回バンゲアアクティビティ
- 三重県中部地震の被害について
- 国際交流センターから
- 広報チームから

第48号

- 三重銀行・三重銀総研との包括協定調印式
- 文部科学省・結城事務次官が三重大学を視察
- 科学研究費補助金の内定について
- 「学長と学生との懇親会」
- 人文学部と三重県立熊野古道センターとの相互連携協力協定調印式
- 「ISO14001セミナー」開催
- 石井投手が小児病棟に激励にやって来た!!
- 「津市げんき大学 -三重大学分校」開校記念シンポジウム開催
- 第九回全国歴史の道会議・三重県大会
- 市民公開講座「日常生活で普通に会う脳・神経系の病気」が開催される
- 大評判! 学生手作り純米吟醸酒
- 国際交流センターから

編集後記

法人化も4年目となり中期目標の達成度評価を受ける時期となりました。今年度は機関別認証評価が、来年度は国立大学法人評価が予定されています。実質的には、4年間の達成度に対する評価結果が次期中期における運営費交付金の配分額を大きく左右することになります。また、法人評価では教育、研究に加えて社会連携の達成度が大きなウエイトを占めることとなります。このような背景から、本号では社会連携の最前線拠点である四日市フロントの活動状況と将来展望について紹介しました。本号を通して、三重大学と地域との社会連携の今後のあり方について一考いただければ幸いです。

[発行]

三重大学広報委員会

三重大学総務部広報チーム

〒514-8507 津市栗真町屋町 1577番地
TEL 059-231-9789 FAX 059-231-9623

<http://www.mie-u.ac.jp/koho@ab.mie-u.ac.jp>

本誌掲載の文章・記事・写真等の無断転載はお断りします。
印刷・製本 株式会社 三晃社